

幼児教育・学校教育に携わるすべてのみなさんへ

# 育ちと学びをつなぐ



## 幼保小の関係者が語り合うシンポジウムを開催しました

令和3年12月13日(月)に、第3回接続期研修会を開催しました。  
横浜昭和幼稚園での公開保育を受け、連携先の二俣川小学校の児童支援専任教諭と他の幼稚園副園長2名、大学教授(講師)によるシンポジウムをオンラインで配信しました。

以下に、当日の研修会で行った「対話」の展開を紹介します。ぜひ、この研修会と同じように、授業や保育の参観を行い、その後、幼保小の先生方で対話するような研修を企画される際に、ご活用ください。



## 子どもの姿に基づく、園と学校間の職員の対話を行ってみませんか？

(参考) 幼保小連携・接続 職員研修のプログラム (吹き出し内は、第3回接続期研修会の対話から イラストはイメージ)

- 公開授業・公開保育(45分~90分)・・・実際の子どもの姿から、育ちや学びを感じた場面を撮影。(写真・動画)
- 休憩(次のステップを別日程にすることもできます)・・・各自、写真を1枚に絞る。
- 対話(3~4人1組・30分)・・・写真を紹介し合いながら、子どもの育ちや学びを共有する

司会者は、以下の質問を使って、対話を進行する

Q1「印象的な子どもの姿を一つ上げてください」

(各自紹介)

この、砂遊びの場面、とても印象的でした。子どもたちが、思い思いに遊びに夢中ている姿がありました。

Q2「保育者のどのような配慮があったのでしょうか？」

(それぞれの写真の場面について、気付いたことを語り合う)

【環境設定、働きかけ、子どもの気持ちへの寄り添い等】

砂場を囲むように、自由に使える道具が準備されていますよね。

Q3「その子どもの姿には、どんな育ちが見られるでしょうか？資質・能力の視点で」

【遊びの中に見られる学び、資質・能力の捉え】

※「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)も活用できます。

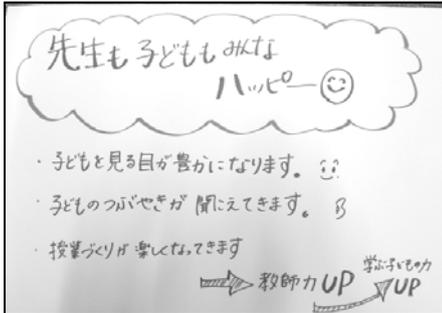
子どもたちの配慮が素晴らしかったです。物の貸し借りで、気を配ったり、友達に砂がかからないように上手に砂場を掘るのは、年長さんならではの育ちだと感じました。

○発表(任意のグループ)

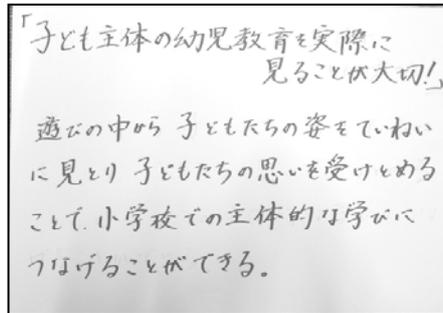


## 「幼保小接続期カリキュラム研究推進地区」の連絡会から

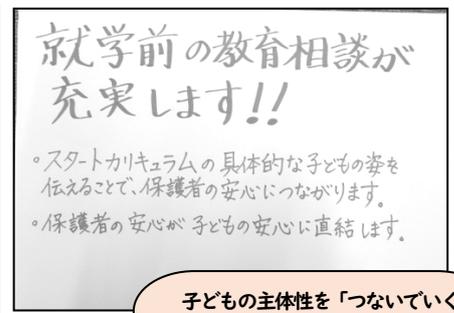
12月20日(月)に連絡会がありました。それぞれの地区で成果と課題を語り合いました。その後、「幼保小連携に関心がある小学校の管理職・担当者の方に、幼保小連携・接続にメッセージを発信する」というワークショップを行いました。学校長・園長・担当者からは、「事業を受けて、研究してみることで、見えてきたことがたくさんあった」「スタートカリキュラムに本格的に取り組み6年。当時1年生だった子どもが、今6年生となり、普段の授業でも、意欲的だったり、教師の想定を超えた問題解決力を発揮したりする子どもの姿が見られる」というお話もありました。



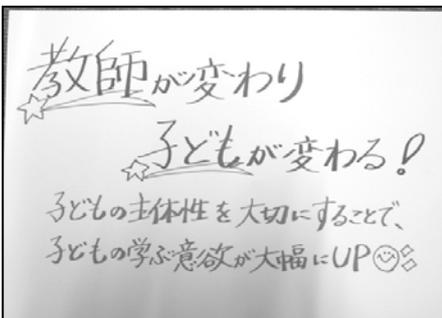
金沢地区



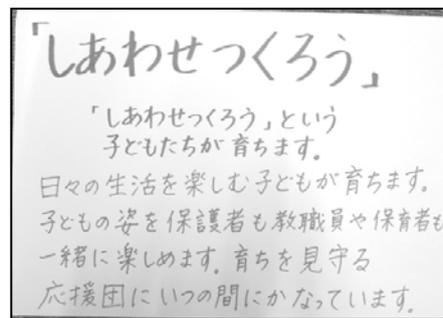
二俣川地区



浜地区



鶴見地区



本郷台地区

子どもの主体性を「つないでいく」という視点が素晴らしいです。子どもの疑問ややってみたいことをキャッチして、子どもと一緒に歩いていくのがカリキュラムですね。  
講師：國學院大學 吉永 安里先生



## 推進地区小学校での幼保小連携・接続研修から

先月、幼保小連携推進地区のある小学校で、実際に園と小学校の園長、校長、職員が参加しての連携研修がありました。その園は日頃から、近隣の公園をフィールドとして、子どもが自然と関わり、遊び込むことが大切にされています。今年度も、近隣の公園での小学校児童と園児の交流も行われています。

この日は、職員同士の対話の機会が設定されました。小学校と園の職員のグループワークでは、  
④「廊下を歩くときに、どこかに行ってしまうようにするには」  
⑤「♪あるこ～あるこ～♪と小さな声で歌うといいかも」  
⑥「絵本の読み聞かせが苦手です」  
⑦「たくさん読んでほしいです。淡々と読んでも大丈夫です」と、日常のある事柄を取り上げ、対話を進めました。計画上の接続だけでなく、実際にどのように子どもと関わるのかについて、具体的な場面を通じた対話も貴重であると感じました。

(※④小学校教諭 ⑤保育士の略)